

曇り空にウキウキ

2010年4月23日。その日は朝から曇り空。今にも雨が降り出しそうな暗くて低い雲に覆われ、私の胸中はウキウキであった。4月下旬にしては低めの気温だが、特に気にはしない。

寒かろうが暑かろうがライズする時はするからだ。いや正確にはハッチするからだ。逆に、まさに教科書通りの適温であっても、静まり返った水面を前に途方に暮れる日も少なくないのだ。実際。要は川に立ってみないと分からないのだ。

それより気になるのは、今年は3月中旬の大雪以来、桂川下流域（通称：シモ桂）において水量が落ちないことだった。餌釣り師やルアーマンにはウハウハの水量でも、ドライフライ使い、しかもライズ狙い師泣かせの高水位が続いていた。

発電所の取水やら放水やら何やらの影響だと思いが、雨量に関係なく水量が変化する区間もあるのが桂川だ。家で天気予報ばかり見ても何の手がかりも得られない。やはり川に立つしかないのだ。

が、水深があるのと同時に砂底のため、すぐに遡行不可能になる。岸際はさらに深くなっているので一度ヒラキまで戻ってから岸に上がる。できればこの岸は歩きたくない。なぜならトゲ付きの植物が多く、やたらに歩くとウエーダーがスタボロになるからだ。細心の注意をはらいながらプール流れ込みを目指す。その間は川の様子をうかがうことはできない。途中何方所かボサの間から川を覗こうと試みるものの、トゲ付きボサに阻まれ諦めた。やつの思いで流れ込み付近に到達するころ、低い雲から細かい雨が落ちてきた。この時季の細かい雨といえば、「アレ」の予感がしてくる。

「アレ」とはフタバコカゲロウのスーパーハッチのことだ。

過去にもしばしば同じ時季の小雨模様の日に、フタバコのスーパーハッチに遭遇している。早瀬からつながるフラットなプールでは、ゆったりとした静かなライズフォームが所々広がり、かなりエキサイティングな釣りになるのは間違いない。ただし、釣り自体は決してイージーなわけではなく、むしろ難易度は散発ライズより高いのではないだろうか。ボコボコライズは釣れる、とは限らないのが、ここ桂川の悩

パニック・ライズ 2

2010年4月23日の山梨県・桂川



パニックライズ。桂川において時として起こる水生昆虫のスーパーハッチに伴うヤマメのライズ、しかも連続した複数のライズをそう呼ぶ。ヤマメがパニックになったようにライズを繰り返す、という意味もあるが、実際パニックになるのは人間の方である。複数の連続したライズを目の前にして、何回キャストしようが自分のフライには見向きもされない状況、そんな時、ニンゲンはパニックに陥る。

文・写真 松井真二（まついしんじ／東京都八王子市）

水位が高いのは百も承知だが、いつものように下流から巡回を始める。やはりキツイ水量であったが、解禁してからはまだシモ桂でろくにロッドも振らずにいたので、どうしても下流域に入りたかった。少しでも高水位の影響を受けにくいポイント、少しでもライズの可能性があるポイント。それもできるだけ長いプール。

そう考えて、今年まだ二度も入っていないプールを偵察することに決めた。途中、当日別のポイントを巡回中の地元在住の桂師、杉本氏と携帯電話で連絡を取り合い、互いに情報を交換する。いつものパターンである。

アレの予感

そのプールはとにかくデカイ。長さもあるが、川幅がとてつもなく広い。プールの終わり、次の落ち込みに続く瀬頭から上流に向かってプール全体を見渡す。状況によってはプールのヒラキから瀬頭でライズが見られる。この日はその周辺ではライズは無し。ヒラキから川通しで上流に向かう。



少しでも水位の影響を受けにくいポイント、少しでもライズの可能性があるポイント。それはやはり、プールである。それもできるだけ長くて広いプール。

ましいところである。

流れ込みに着。期待に胸をはずませて流れを見ると、すでに静かなライズリングが2つ、3つ、いや、良く見ると、あちこちにライズリングが広がっていた。スーパーハッチとまでは言えないが、ライズゲームを楽しむには充分過ぎるほどの、フタバコのハッチとライズ。トゲトゲのボサを突破してきた甲斐があった。

すかさずロッドにラインを通しながら杉本氏に連絡を入れた。会話はわずか数秒、「今からソッチに行く！」で

終了。

あらためて水面を観察すると、可愛らしくお尻をビコビコと動かしながらフタバコが次々と流されて来る。その他にガガンボ、シロハラ、エラブタがチラホラといった感じだ。

肝心のライズはというと、数は多いものの、そそられるほどのヨサゲなライズ（型の良さそうなヤマメのライズ）は見当たらない。ひとまずヨサゲライズが始まるであろう流芯付近の本命筋を避けつつキャストを開始する。

結果はすぐに出た。フライは#20の

フタバコパターン。22cmほどのヤマメであった。ストマックは9割がフタバコで、残りはエラブタであった。その後も本命ポイントは温存しつつ、しばしばライズゲームを楽しんだ。

パラダイス・ライズ

いくつものライズを獲ったがヤマメのサイズは上がらず、9寸アタマでアベレージ22〜23cmといったところか。肝心の本命ポイントでもヨサゲライズ